

仮想アース Crystal E の導入(23)(HP 収載)

—JBL4350A—

1. 始めに

前報(22)までには、スピーカーシステムへの仮想アースを適用してきた事例がありましたが、今回は、まだそのような試聴を実施していないシステムに仮想アースを適用してみます。

2. 仮想アースの試聴方法

前報(22)までのスピーカーシステムへの仮想アースを適用してきた経過は次のとおりです。

TANNOY Autograph MINI への適用がもっとも多く次のようになっています。

前報(9) スピーカー入力端子 Crystal E

前報(12) スピーカー入力端子 仮想アース製作品

前報(14) スピーカー入力端子 仮想アース製作品

前報(19) スピーカー入力端子 仮想アース製作品

前報(20) スピーカー入力端子 仮想アース製作品

FAL C90EXW では、アナログ再生系、DAC、CD プレイヤーなどの効果を見てきましたが、スピーカーシステム本体への仮想アースの適用は下記のとおりです。

前報(15) スピーカーケーブルの途中 前報(14)仮想アース製作品

EMI DLS 529 では、駆動アンプとスピーカーシステムに適用しています。

前報(22) Rogers Cadet III Crystal E

Rogers Cadet III スピーカー出力端子

前報(20)仮想アース製作品

今回、スピーカーシステムへの仮想アースの未適用の JBL4350A への適用を下記の手順でおこなってみました。本来、スピーカー入力端子に適用したいところですが、設置条件の関係で作業性のよい方法を採用しました。JBL4350A はマルチアンプ駆動を行っていますので、3 対の仮想アースを次のように使用します。

ダブルウーファー駆動 Heath Kit W6M(KT88pp)

スピーカーケーブル出力端子 前報(14)仮想アース製作品



ミッドバス〜ツイーター駆動 45pp
スピーカーケーブル出力端子 前報(20)仮想アース製作品



スーパーツイーター(PT-R7)駆動 Pilotone 6V6pp
スピーカーケーブルの途中 前報(12)仮想アース製作品



音源はアナログ再生で、アナログ再生系と Brooklyn DAC+には Crystal E を接続済です。

音源は、バッハの Sonatas & Partitas、ワーグナーのワルキューレ、クレンペラー指揮フィルハーモニアのヘンデルのメサイアと倍賞千恵子のアナログ盤です。

3. 仮想アースの試聴結果

まず、現状のアースなしの状態では聴いておき、ついで仮想アースの効果をお聴きいただきます。

バッハの **Sonatas & Partitas** では、仮想アースを接続しますと、ヴァイオリンの高音が澄んで、倍音がきっちり出てきたように感じます。

ワーグナーのワルキューレでは、仮想アースを接続しますと、オーケストラの分離が向上し、ソプラノやメゾソプラノの声の焦点があって定位が明瞭になり、ホルンの音の曖昧さが解消します。

ヘンデルのメサイアは、仮想アースを接続しますと、合唱とオーケストラの分離が向上し、ソプラノ、バス、トランペットなどの焦点が合い、通奏低音も明瞭になります。

倍賞千恵子では、仮想アースを接続しますと、ボーカルのニュアンスが採りやすくなり、バックの伴奏の音の緩みが締まってきます。

折角の機会ということで、仮想アースを接続した状態で、大編成ものということで、ジュリーニ指揮シカゴ交響楽団のマーラー1番とフルシャ指揮バンベルク交響楽団のモルダウの45回転盤をお聴きしましたが、これまでになく大編成オーケストラの醍醐味を満喫できました。さらにプレイヤーを **TohrensTD124** に替えて小川理子トリオの78回転盤をお聴きしましたが、ジャズのなまなましい迫力を感じ取ることができました。

4. まとめ

JBL4350A はマルチアンプ駆動を行っており、各駆動アンプと駆動対象ユニットの間に仮想アースを適用する効果を認めました。素材の構成もばらばらの自作品の仮配線ですので、機会を見てきちんとした同一機種の本規の市販製品をユニットの入力端子に接続してみたいと思うようになりました。

以上